

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079100162
法人名	有限会社 北村
事業所名	グループホームなかま (ユニット名)
所在地	〒839-0223 福岡県みやま市高田町岩津785
自己評価作成日	平成31年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	平成31年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで長年暮らしてきた生活リズムを崩さず、人間らしく平等で自由に、家庭的な日常生活を継続支援し、残された能力を引き出し、ゆったりと落ち着いた、不安のない心で家庭とのかかわりも密にしながら、又地域の行事や、隣接する地域の方々との交流を深めながら過ごして頂く。小規模で介護の出来る、明るく、楽しいグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は幹線道路から入った、のどかな田園地帯の一角に立地している。屋内は木をベースにした平屋造りでリビングの中央にはゆったりと過ごせるようにソファを配置している。間口の広いガラス戸から出入りできるウッドデッキがあり、四季折々の花や果樹、野菜を楽しめる庭がある。職員は理念である「地域社会と交流し、自分らしさを継続し、心より笑える生活」に基づいたケアの実践の為、町内会行事に参加したり、利用者と公民館のいきいきサロンにも参加している。農業や園芸をされていた方には庭で野菜作りや果樹の収穫をして貰うなど、これまで行ってきたことの継続を日々の生活の中で行えるように支援している。職員間の関係性もケアの質に関わることを意識し、気兼ねなく働ける関係性を築いている。利用者の表情も明るく穏やかで、職員との会話も活発に行われており、利用者の自分らしさと笑顔を大切に支援の実践が行えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近所へ散歩へ行かれ知り合いの方より花をもらったり、ふれあいサロンへ毎月参加をされる。隣組の方と食事をしたり、話されたりされる。	理念は玄関に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和して共有している。利用者が笑顔で過ごせるように、日々の業務の中で理念に沿わない言動があったときは、職員が互いに声をかけ合い、確認が出来る関係性を築き実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に入って、葬式の世話や、缶拾い等行っている。市営住宅の人を歓迎している。お宮の清掃に、第三日曜日に参加している。	毎月公民館で開催される、「いきいきサロン」には利用者と共に参加し、町内会に入り地域の行事にも参加している。近隣の方が花や野菜を持ってきてくれたり、畑の草取りにも来てくれる等、日常的に地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岩田幼稚園からも、おゆうぎ会に来て頂き中学生のボランティアを受け入れているので、少しずつ理解されてきている。その中で、介護に就かれた生徒さんがでている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	車椅子の利用者様をソファで過してもらったり、食事の時は椅子に掛けても立っているのを運営推進会議でいいと言って頂き今も続けている。	年に事業所で3回、グループホーム協議会で3回開催している。市の介護保険課職員、区長、利用者、家族代表、管理者が参加し、事業所の現状や外部評価結果などを報告したり、家族の困りごとや制度について相談をしている。家族からおむつ券について説明希望があり行政職員に説明してもらったこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年3回、4月・8月・12月に3施設による運営推進会議があり、単独の運営推進会議を3回実施している。その時、市役所の係長や係りの方に参加して頂いて、質問やアドバイスを頂いてる。	介護保険申請の手続き時に事業所の状況報告を行っている。介護保険制度に関する質問、相談がある時は必ず窓口へ出向いている。包括支援センターからも利用者について相談を受ける等の関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない為に、Dルームにて休んでいただいたり、ドアから見える位置にスタッフが座ったり部屋移動をしたりして拘束しない様に取り組んでいる。布団を動かした時に鈴がなる様にしたり靴に鈴をつけてどこに行っているのか把握する様にしている。	身体拘束防止委員会を設置し取り組みを行っている。玄関は18時～7時までは防犯のため施錠しているが、家族の訪問は24時間いつでもできるようにしている。管理者は日々のケアの中で、言葉による拘束も無いように配慮しており、不適切と思われる場面を見受けた時には個別に注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は、言葉の暴力もそうである事を話し合っている。要介護3の方で手が弱くなれば靴下をはけなくなられた利用者様に対して、靴下はきを強要されたりしたので三度ほど注意したことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の長男さんが後見人になられた事がある。	玄関近くの廊下に制度のポスターが貼り案内している。以前、制度利用をしていた方が居られたので、職員は、概要は理解しており、行政主催の研修に参加する等制度について学ぶ機会をもっている。利用者、家族からの相談があれば説明できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時負担額が2割なのか又1割なのかの区分がある事や解約も14日前に通告して頂いたらいつでも出来る事等説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昔は、どこの家も実のある木があったので、植えてほしいとの事でいちぢく、柿、ビワ、グミ、さくらんぼ、アンズ等を植えている。又、畑は利用者さん希望でサツマイモと玉ねぎ、ネギ、ニラ等を植えている。投書箱を設置している	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き取り、家族からの意見や要望はケアプランの見直し時期や訪問時に聴き取りを行っている。家族とも気さくにコミュニケーションが取れる関係性を築いている。庭には利用者、家族の希望で果樹や野菜を植えたり、アンカを入れてほしいとの希望にも対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務も家族も大切にしてもらうため、公休の希望が欲しいとの事で4回までは希望OKと個人交代もお互いに交渉が成立すれば可能としている。また、年2回程親睦会を開催している。	毎朝の申し送り時に意見や提案をして話し合っている。管理者は、日々の業務の中でいつでも職員の意見や提案を聞ける機会を設けている。事業所会議でも話し合い、出された意見や提案は状況に応じ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務は勤務時間、準夜帯と交代がきちっと出来る様心掛けている。レベルアップ研修にも参加してもらっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたって性別や、年齢は不問としている。	職員は年齢層が幅広く、それぞれの希望に添った働きやすい勤務体制で取り組んでいる。希望休暇も月4回まで取れるようにしている。それぞれの能力に合わせた研修への参加の機会もあり、資格取得に関してもバックアップ体制がある。調理が得意な職員もおり能力を発揮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、研修にも参加してもらっている。新人教育時や必要に応じて教育している。	管理者は行政主催の研修に、職員を参加させている。職員は日々のケアの中でも言葉遣いや対応に注意し、利用者の人権を尊重した支援を心がけている。職員間で互いに注意が出来る関係性が築けており、必要に応じ管理者が個別に対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その人その人の能力や介護の力量に合わせて、研修を受けてもらっている。伝達研修などを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3回運営推進会議を他施設と開催し、お互いの良い所を報告しあい自ら取り入れている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に時間をかけてその人に、寄り添い会話を密にしているので、取られ妄想などが減少している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のかかえている問題を十分に聞く事により、ここに入居して良かったという言葉が聞けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者がオムツ使用で入居されたが、3時間隔にトイレ誘導を行い褥瘡なども出来ないし、清潔の保持が出来ている。現在はトレーニングパンツになっている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや食器拭き又、食事の下ごしらえ等を取り入れたり、畑の里芋の種芋を取ったり、今、植える時期などと教わっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来て頂く時は孫さん達も来やすい様に自動車やままごとを用意したり、毎週一回面会に来て頂いて会話をさせて頂いたり、介護は出来ないのでも草取りに来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の桜見や濃施山公園のこのぼりに行ったりふれあいイキイキサロンに出かけたりして面会を喜んで頂いている。イキイキサロンには生徒さんだった方もおられ大変喜ばれる。	毎月公民館で行われるいきいきサロンに参加することで、入居前の隣組の方や顔なじみの方に出会うことができている。近隣のお宅に訪問したり、三味線教室に職員が送る等の支援を行った事例もある。地域からは絵手紙教室の方が毎月作品を展示しに来たり、地域の方などと馴染みの関係の継続が出来る支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はデイルームで皆さん過してもらい活動や学習体操などスタッフを交え交流を保っている。数字並べ等二人でされたりされている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経済的理由から特老に行かれたが、利用者さんと時々おはぎが好きだったので面会に行ったり、亡くなられたらお参りに行ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事もゆっくり促したら時間がかかるが、その人のペースに合わせている。ゴーヤ等の収穫を喜んでもらっている。花に対して興味を示されるので季節の花を飾る様に努めている。	家族の訪問時には、本人の思いや意向について話を聞いたり、日々の関わりの中で、顔の表情や行動を見て気持ちをくみ取り、本人本位に検討している。野菜や花に興味がある事がわかり、事業所の庭に、野菜の種や草花を植える事で、育てる楽しみにつながり、落ち着いて過ごしている事例もある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に一人一人の本人や家族からの情報収集に努めている。草取り好きなので一緒に行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	女性なので、食事の下ごしらえ等は特に喜ばれるが、包丁などは難しい人もいて、能力に応じている。もやし揃えやニラ揃えが好きなのでスタッフに揃えたニラを持ち帰ってもらう事もある。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成したらミーティングにかけて意見やアイデアを反映している。	朝のミーティングの時に、職員全員で利用者に関する情報や意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成している。トイレの場所が解からない利用者には、居室の場所を変えることで不安なく、トイレの利用ができるようになった事例もある。日々の利用者の様子で気づいたことは職員間で共有し、計画に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	なるだけ詳しく記録し少しの変化にも注意を払う皆で共有できるようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間の設定はせずいつでも家族・親族が会いに来れるようにしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあいイキイキでの地域の方のふれあいを何となく思っており楽しんでいる		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの生活を継続出来る様にかかりつけの病院をそのまま継続して頂いている往診が必要な方など密にかかりつけの医師との連絡をとっている 歯科の往診を取り入れている緊急時の対応の敏速な職員間の連絡を取る	入居後も主治医の変更を勧めたりしないで、今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診できるように支援している。内科や歯科の訪問診療を利用するケースもある。複数の医療機関と連携を密にすることで本人や家族等の希望に応じた適切な医療を受けられるように取り組んでいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診などもおられ急変時の対応で家族の思いや対応の違いを感じその意見を尊重している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関のソーシャルワーカーや看護師などとの連絡を密に取り毎日病室にお見舞いに行き体調を見に行っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と終末期の話し合いを行い看取りはホームとの希望あり。かかりつけ医と地域の方との支援を行なうようにしている。定期的に往診・体重の変化などしっかり観察し水分量、食事量も記録するようにしている。職員間の情報共有をスキルアップする	契約時に、重度化や終末期のあり方について本人・家族等と話し合っている。安心して納得した最期を迎えられるように、随時、意志確認を取りながら、現状に合わせた支援をしている。今までに、2名の看取りを実施している。管理者は看護師で、実務経験があり、家族等や医療関係者と連携を取りながら、職員が適切な支援がおこなえるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の勉強会や指導をしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練及びあたご苑への避難等、全員確認、地域からも連額が密である。(民生委員さんや各区長さん)地震や水害は岩田小学校体育館に避難する。	昼夜を想定して、年に2回の火災訓練を実施している。全職員は消火器の使い方や避難誘導について理解している。2～3日分の利用者の食料や飲料水を準備している。地域の住民や他の事業者との協力体制を築いている。地震や水害発生時のマニュアル整備に至っていない。	火災訓練の実施を通して、職員は避難方法などを習得しているところである。有事の際のスムーズな避難誘導対応をしていくためにもマニュアルの整備をすすめていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重とプライバシーの確保は守っていて、言葉かけも丁寧である。	職員は日々、一人ひとりの人格を尊重した声掛けや対応を心掛け実践している。トイレ誘導時には、耳元で声掛けする等、誇りやプライバシーに配慮している。記録をとる時は利用者の視野に入らないようにしている。個人情報に関わる書類は職員のみ出入りする部屋で保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆んど自分の意思決定により外への散歩や更衣なども行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ぬり絵やパズルなども希望に応じて頂いているし、洗濯物量などそれぞれに支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時も、自己決定を大切に洋服も持参して頂いたり、選んで頂いている。同じになる場合がある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等、そろえ物はもう少し取って来んね等言われたりしている。	事業所の庭にある畑で職員と利用者で育てた野菜を収穫して、調理している。食事の準備は、もやしのひげやえんどう豆の筋とり等、利用者ごとにできることを職員と共に行なっている。訪問時には、利用者と職員が昼食の稲荷ずしを食卓で作っており、楽しんで食事できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時のおやつ時も、ミルクが消化がよいと言う事で取り入れたり、いりこをすったりしてデータ的にも異常の人はいません。心臓肥大が治った方もある。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科治療後アフターケアもして頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導は訴えの無い人は3Hごとに誘導しているが、やもえずオムツの方もいる。	利用者ひとり一人の排泄チェックを行ない、排泄パターンに応じて自立に向けた支援に取り組んでいる。入居時にはオムツを利用していた方が、誘導の工夫を行なうことで、リハビリパンツの利用に改善した事例もある。また、本人の顔の表情や動作を見て、時間にとらわれず、トイレ誘導を行なっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレにゆっくり座る事により、排泄可能な方もあり個別に取り組んでいる。立ったり座ったりの運動に心掛けている。又、便秘傾向の方はバナナジュース等で排便される方もいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	便失禁で汚染がひどい時などは優先して入って頂いている。拒否される時は時間を置いて再度声かけをしている。	週に2～3回の入浴介助を行なっている。入浴を拒まれるときは、時間を置く等工夫して、個別の入浴支援を行なっている。家族からいただいたゆずを風呂に入れて楽しむこともある。シャンプーや石鹸等は、本人が使い慣れたものを使用できる。職員は、利用者の好きな歌や楽しい会話をすることで、入浴の不安感や抵抗感を軽減に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早寝早起きの人が多く8時頃は自室に自ら帰られるが、9時ごろ眠られる方もいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知症のメモリーや血圧の薬などは注意して観察している。副作用に注意が必要な時はしばらく壁に張ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性の方ですが、もやしそろえやニラそろえが好きなのでホームの横になっているニラそろえをしてもらってスタッフに持ち替え得てもらう事がある。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	草取りの好きな方は、庭で草取りをして頂いたり。天気の良い日は外で日光浴や花見などおやつお茶を飲んだりゆっくり過ごしてもらっている。近くに中学校などがあり地域交流面で良い為中学生との交流を少しでも行いたい	日常的に、体調や希望を考慮しながら、外出できるように支援している。自宅の事が気になり、帰りたいとの希望に沿うこともある。家族の訪問時に外出レクリエーションの声かけを行ない、一緒に協力して季節の花見に出かけることもある。家族と共に馴染みの場所や食事処に出かける方もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に2,000円入れて頂いてそれを見て安心されてある		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキを書かれるので出している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小さいカーテン等で直射日光が当たらない様工夫している居室には季節感のある飾りをしている。配色や色ぬりなど少し高度な技術力を向上させ興味を引き出す	季節の飾りを玄関や廊下の壁に掲示している。廊下は広く、車いすや歩行器での移動が安全にできる。食堂兼居間では調理の様子を見ることもでき生活感がある。居間のソファは一人ずつゆっくりと寛げるスペースをとり、木々や季節の草花、野菜の成長も見る事ができ、居心地よく過ごせる工夫が随所にある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下散歩時テーブルに座ったり外を見て会話したりされている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやイス等を持ち込んであり、自宅に近づいている。布団や枕など自宅で使い慣れた物を持ち込みを実施している。本人さんの希望により就寝時の布団の厚さなどに配慮している。季節感を取り入れ本人さんの希望に少しでも添え花などの飾りなど実施する	居室は、日当たりも良く、自宅で使い慣れた家具や品物を持参できる。衣類や持ち物の収納スペースも広くとってあり、スッキリとした作りになっている。本人手作りの作品や家族、愛犬の写真等を飾り、自宅と同じ様に、居心地よく過ごせる工夫をしている。希望があれば家族等が宿泊することも可能である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯後タオルたみ等を手伝ってもらったりお茶碗洗い拭き方法等		